

(34)

氏名(生年月日)	ヤマ シタ トモ ユキ 山 下 共 行
本 籍	
学 位 の 種 類	医学博士
学位授与の番号	乙第1033号
学位授与の日付	平成元年 7月21日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)
単位論文題目	遠隔転移を起こす甲状腺濾胞癌の臨床病理学的特徴とそれに基づく治療法の検討
論文審査委員	(主査) 教授 出村 博 (副査) 教授 浜野 恭一, 平山 峻

論 文 内 容 の 要 旨

目的

甲状腺濾胞の治療に際し、合理的な甲状腺全摘の適応を決めるために、どのような濾胞癌に遠隔転移が起こりやすいかを臨床病理学的に検討した。

方法

1981年から1987年の間に東京女子医科大学内分泌外科で治療し、病理組織学的に明らかな血管侵襲もしくは被膜侵襲を示した甲状腺濾胞癌患者39例を対象にして、臨床病理学的所見と遠隔転移の有無との関連を検討した。甲状腺全摘を27例に、甲状腺葉切除を12例に行い、術後¹³¹I全身シンチと血中サイログロブリン(Tg)測定によって転移の有無を検索した。

結果

(1) 濾胞癌39例の中で13例(33.3%)に遠隔転移を認めた。顕性転移例(甲状腺手術時に遠隔転移の明らかであった症例)は7例、不顕性転移(手術後の検索ではじめて転移が発見された症例)は6例であった。

(2) 治療成績をみると、不顕性転移例で¹³¹I治療を行ったものは全て、¹³¹Iのとりこみ病巣は消失、Tg値も下降し、治癒した(4例)。

顕性転移例で¹³¹I治療を行ったものは1例治癒、2例担癌生存、2例癌死を示した。術後の検索で遠隔転移が認められなかった26症例は全例再発なく健存である。

(3) 摘除標本の剖面所見で、原発巣のまわりに厚い線維性被膜形成がみられ、かつ肉眼的被膜侵襲を示している症例では、遠隔転移の多いことが判った(16例

中9例)。また顕微鏡的にLanghansのいう“増殖性甲状腺腫”に特徴的な充実性ないし索状の癌細胞増殖所見を示す症例にも遠隔転移の多いことが判明した(11例中6例)。逆に厚い線維性被膜形成がなく、かつ“増殖性甲状腺腫”の所見のない症例9例では遠隔転移を起こしたものはなかった。なお血管侵襲の程度と遠隔転移の有無とは関連性が認められなかった。

考察

濾胞癌の遠隔転移は従来いわれるほど高率には認められず、従ってすべての濾胞癌症例に生涯甲状腺ホルモン剤内服を必要とする甲状腺全摘を行うことは、ゆきすぎの治療と考えられる。しかし一方、手術後の検索で初めて転移が見つかる不顕性転移例では、¹³¹I治療が根治的となりうることが判明した。遠隔転移を臨床上不顕性の段階で発見するためには、甲状腺全摘と¹³¹I全身シンチ、血中Tg測定が不可欠である。そこでどのような臨床病理学的特徴をもつ濾胞癌に遠隔転移が多いのか、つまり甲状腺全摘の適応があるのかを検討し、以下の結論をえた。

結語

原発巣に厚い線維性被膜を有し、肉眼的にわかる程度の被膜侵襲の認められるとき、組織学的に充実性ないし索状の増殖所見を示すときに甲状腺全摘の適応があり、以上のどの所見もないものは甲状腺葉切除にとどめてよいと考える。

論文審査の要旨

甲状腺濾胞癌は、しばしば遠隔転移を起こし、その治療として一般に甲状腺全摘と大量の¹³¹I投与が行なわれている。しかし、すべての濾胞癌が遠隔転移を起こすわけではないので、遠隔転移の可能性のない症例にまで一律に甲状腺全摘を施行することは、ゆきすぎである。本研究は、甲状腺濾胞癌の中でどのような例が遠隔転移を起こすのかについて臨床病理学的な特徴を検討した。その結果、第1に腫瘍の構造上厚い繊維性被膜形成と被膜外浸潤を示すもの、第2に組織学的に均一な腫瘍細胞の充実性増殖を示すものが多いことを明らかにし、甲状腺全摘の適応を明確化した学術上価値ある論文である。

主論文公表誌

遠隔転移を起す甲状腺濾胞癌の臨床病理学的特徴と
それに基づく治療法の検討

東京女子医科大学雑誌 第59巻 第3号
206-211頁 (平成元年3月25日発行)

副論文公表誌

- 1) When is total thyroidectomy indicated as a treatment of "follicular carcinoma"? (濾胞癌の治療として、いかなる場合に甲状腺全摘が適応となるか)

World J Surg 12 (4) : 559-564, 1988

- 2) 巨大脾嚢胞2例の報告と文献的考察—特に近年の画像診断の進歩に伴う病像の変化について—

日臨外医学会誌 46 (10) : 118-126, 1985

- 3) Aggressive surgical approach for locally invasive papillary carcinoma of the thyroid in patients over forty-five years of age (45歳以上の局所浸潤甲状腺乳頭癌症例に対する拡大手術)

Surgery 100 (6) : 1098-1106, 1986

- 4) 成人に発症した乳腺分泌癌 (若年性癌) の1例癌の臨床 34 (3) : 342-346, 1988

- 5) 縦隔気管切除一端々吻合により治癒させえた再発甲状腺乳頭癌の1例

外科 45 (4) : 423-426, 1983